

令和3年度第2回大船渡市スポーツ推進審議会

日時 令和4年3月24日(木) 午前10時～午前11時30分
場所 大船渡市役所 地階 大会議室
出席者 委員：9名
大船渡市：協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、スポーツ推進係

[会議内容]

1 開 会

2 あいさつ（田中正芳会長）

北京オリンピック・パラリンピックでは、岩手県出身の小林陵侷選手がスキージャンプで金・銀メダルを獲得し、スノーボードでは、岩淵麗楽選手が4位入賞を果たすなど、県勢の活躍が目立った大会であった。3月22日には、市体育協会では表彰式を行い、令和3年度の栄光賞、奨励賞を授与した。県内のコロナウイルス感染症は、まだまだ高止まりの状態が続いている。当市のスポーツ推進計画の基本理念である「スポーツを通じて心身ともに健康で豊かな生活」が早く実現されることを願うばかりである。本日は、皆様の御協議をよろしくお願ひしたい。

3 議 事

第1号 令和3年度スポーツ・レクリエーション事業の実施状況について
事務局より、資料1ページから9ページのとおり説明した。

〈意見・質疑応答〉

- ・（新沼良治委員）6ページのスポーツ合宿支援事業について、補助金交付の条件を教えてください。先日、高校野球の関係で、市内で安く泊まれるホテル・旅館等がないか尋ねられたところであり、活用できるのであれば紹介したいと思う。
 - 市内のスポーツ施設を利用し、2泊以上市内の宿泊施設に宿泊して行うスポーツ合宿に対して、補助金を交付するもの。小学生～大学生までのスポーツ団体が対象で、最大上限を20万円までとしている。1人当たり2,000円で、延べ人数に応じて補助金を交付している。例えば10人が2泊すれば、延べ20人で、2,000円×20人＝40,000円が補助金として交付される計算になる。

合宿支援補助金については、今年度、県内全ての高校へ支援制度を案内するダイレクトメールを送付し、いくつか反応があったところであるが、ちょうど夏休みと春休みの時期に岩手県独自の緊急事態宣言が発出されたことにより、実績としてはこのとおりとなっている。いずれ、取組自体は、継続して実施しているところである。来年度も継続する。
- ・（伊勢良行委員）9ページの成果指標のところ、スポーツ施設利用の満足度が約5ポイントアップしていると説明があった。具体的な理由は、把握されているのか。それらが施設整備等に反映されているのであれば、それに越したことはないと思う。
 - この数値は、市民意識調査の結果を引用しているものだが、この項目については、自由記載がないため具体的な理由についてはわかりかねる。ハード整備が劇的に進んだわけではないので、体育協会等によるサービスの部分で満足に感じた利用者が増えたのではと考えている。
 - 総括の部分に記載があるが、厳しい財政状況の中で、効果的に投資するためにもこういった部分の把握に努められたい。

- ・（中村和司委員）同じく成果指標の部分について、23.3%という10人中2～3人程度の満足度ということで、少ないように感じている。もっと具体的に、どこに満足を求めているのか調べる必要があると思う。日頃より市民体育館を利用しているが、個人的には80～90点あげたいくらいだ。そういう意味では、もっと評価が高くてもいいのではと思う。
 - 市民意識調査については、市民の中から無作為に抽出した皆さんにお願いするものであり、施設を利用しない方が母数に多く含まれていることも影響しているものと考えている。今年度から、指定管理者に対しモニタリング調査として指定管理の効果をチェックしていくこととしており、その中で利用者に対するアンケートを実施している。実際に施設を利用する方々の生の声が、より伝わってくるものと考えている。来年度は、その調査結果も加味した上で、皆様にご報告したいと考えている。
 - 指定管理者には、コロナ対策の部分などで一生懸命取り組んでいただいている。そういった部分がきちんと評価されることを願う。
- ・（中村和司委員）7ページの総括の部分に「経済的波及効果を目指した～」と記載がある。市外の方々が大会等で市内のスポーツ施設を利用されると思うが、キッチンカーや出店などに市の公認を与えて、お土産や弁当などを販売するなど、市外の方にお金を使っていただくような工夫があってもよいのではないかと思う。
 - 今までは、そういった商工関係者の方々に直接働きかけをしたことがなかったので、来年度は検討材料としたいと思う。

第2号 大船渡市スポーツ施設整備基本計画の進捗状況について

事務局より、資料10ページから17ページ及び別添資料のとおり説明した。

〈意見・質疑応答〉

- ・（渡邊千鶴委員）テニスコートについて、3年位前までは確かにコートが空いていないことが多かったが、最近は空いていることも増えてきた。仮に、計画どおりテニスコートを整備するのであれば、別な用途にも使用できるような整備は検討されているのか。
 - テニス協会をはじめ、関係者の方々と直接意見交換をする機会がなく、今のところは、「拡張整備」ということだけ考えている。今後、様々なアイデアをいただきながら、検討していきたいと思う。
 - テニス関係者だけだと、テニスコートにしてほしいという意見になってしまうと思うので、茶屋前コートのようにフットサルや3 x 3バスケットができたりするとよいと思う。
 - 他の自治体の例を見ても、今は一つの競技の専用施設はほとんどなく、複合施設として整備する例が多い。
- ・（吉田勝委員）テニスコートの件について、既存の5面に加え、田中島グラウンドの部分に3面増設すれば8面となり、県大会など大きな規模の大会も開催できるようになるそうだ。普段の練習だけでなく、大きな大会も開催できるということになれば、市民にとっても喜ばしいことだということで、野球協会では、子ども達が野球をするグラウンドが確保されてきたこともあり、田中島グラウンドを廃止してもよいと考えている。
- ・（谷山誠志委員）市営球場について、こういった会議に何度出ても状況の説明ばかりで、一步、二歩と進んだ回答を得られていない。例えば、夜間照明がないということは、50年前から言われていることであって、こういった理由で整備ができない、財源がこういう状況なので難しいといった情報は、一つも出せないのか。内々にはあるけども出せないということなのか。
 - 現時点では、整備財源については決まっていない状況である。市スポーツ施設整備基本

計画にあるとおり、整備するために検討を進めているところであり、様々な御意見があることは承知しているが、令和5年度までは検討を進めるということにしているので、御理解いただければと思う。

→ 市営球場に限らずスポーツ施設は、いつか限界を迎えるものである。計画的に整備を進めてもらわないと、ダメになってからでは遅いと思う。財政的にもものすごく厳しいことは理解しているので、計画的な整備についてお願いしたい。

- ・ (吉田勝委員) 学童のスポーツ交流大会(軟式学童野球の全国大会)を、岩手県の沿岸地域で開催してほしいということで話が進んだ経緯がある。それが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまい、令和4年度の日本スポーツマスターズの軟式野球が沿岸地域で開催されることになった。大船渡市が主会場になることもできたが、整備された球場がないために、主会場は、陸前高田市の球場になってしまった。いつでもこういった大会が呼べるような球場があればよいと思う。
- ・ (中村和司委員) B&G海洋センターのプールについて、資料5ページに令和3年度は開放を中止したとある。存廃について検討されるようだが、結論は早い方がよいと思う。
→ 令和3年度は、プールのろ過機等の不具合により、衛生的に安全に使用していただくことが難しいため、開放を中止した。施設の老朽化が激しく、市内には民間企業等の温水プールもあることから、夏期のみ限定施設であるB&G海洋センタープールについては、修繕してまで使用し続けるのは難しいと考えている。「存廃について検討」としているが、現時点でB&G財団との内々の協議を進めているところであり、令和4年度中には方向性を示したいと考えている。
- ・ (田中正芳会長) B&G財団から修繕費の助成などないのか。
→ 数年前から申請しているものの、全国でも同じような状況の施設が多く、なかなか採択されないというのが現状である。施設を廃止となれば、B&G財団の手続きも発生することから、まずは財団とコミュニケーションを図りたいと思う。
- ・ (伊勢良行会長) 新しく施設ができることについては、利用者にとって問題ないと思うが、今まで使っていた施設が利用できなくなる、廃止されるとなった場合、その利用者にとっては問題が色々出てくると思う。使われている方々に対して、検討の結果をいきなりお知らせするのではなく、その過程をしっかりと示して、どういった理由で廃止せざるを得ないのか、丁寧な説明をお願いしたいと思う。綺麗な廃止の段取りをお願いしたい。
→ プールがある綾里地区の関係者とは内々に協議を進めているところであり、関係者への説明といった部分については、きちんと詰めながら進めていきたいと思う。
- ・ (新沼部長) 施設整備について様々な御意見を頂戴しているところだが、それらを考慮した上で、今後の施設整備を考えていきたいと思う。厳しい財政状況の中で、財源が重要な要素になることは間違いないが、それ以外にも検討しなければならない事項が多々ある。市営球場を例に挙げれば、50を超える項目の検討が必要になる。そういった意味で、一定の調査・検討期間を定めさせていただいた。この計画の着実な推進には、こういった多角的な検討をじっくり進めていく必要があり、御理解いただきたい。利用者などへの丁寧な説明という部分については、我々も心して取り組みたいと考えている。B&G海洋センタープールに限らず、主要施設については、「関係者との協議」をあえて明記している。様々な関係者がいらっしやると思うので、十分に意を配していきたい。

- ・（新沼良治委員）資料3の3ページに佐賀県武雄市の例が挙げられているが、武雄市自体は田舎町というイメージがあるものの、こうした自治体でも「大胆にスポーツ施設を再編している」とのことで、大変心強いなと感じている。市の財政が厳しいことは重々承知の上で、球場の命名権を売るなど検討してはいかかが。例えば、岩泉町の町営球場は、楽天イーグルスの冠がついている。こうすることによって、お金や補助金が入ってくるのか、詳しい仕組みはわからないが、佐々木朗希選手の活躍が期待されることもあり、千葉ロッテマリーンズと相談してみてもいいかと考えている。

それから、2ページの考察の部分には、「防災拠点を兼ねる複合施設として整備」とある。私も以前に市営球場と体育館を同じ敷地内に整備し、防災拠点とする意見をお話しているが、土地もないところで難しいということになるのかもしれないが、土地がない場合どうしたらよいかということで、ぜひ御検討いただければと思う。例えば長洞地区について、土の捨て場がないので難しいということだったので、別な場所に運んだらどうですかとお話した。今思えば、市の方でよく検討した上での答えだったのかなと疑問に思っている。こういったところを一つ一つ詰めていっていただきたい。大船渡市のスポーツ施設は貧弱である。これから整備を進めていくということであれば、10年後、20年後、30年後に「あの時大変だったけど、整備して良かったな」と思えるような、市民の方々が利用しやすくなったなど実感できるような整備を考えていただけるとありがたい。

最後に、市民テニスコートの件について、今のコートには観戦する場所がない。プレーヤーだけの施設で、観客への配慮がない施設なので、客席を整備したらどうかと意見したら、管理棟があるので難しいとの回答だった。お金がかかるかもしれないが、管理棟は移設すればよいのではと思う。間に合わせではなく、これから将来、気持ちよく利用できるような施設を検討いただければありがたい。

- 佐賀県武雄市については、福岡県の隣県ということでベッドタウンのような街である。スポーツ施設だけでなく、市立図書館の指定管理者に民間の大手書店が入るなど、様々な面で話題になっている自治体である。

第3号 令和4年度スポーツ・レクリエーション事業関係補助金について
事務局より、資料18ページのとおり説明した。

〈意見・質疑応答〉

特になし

第4号 令和4年度スポーツ・レクリエーション事業計画（案）について
事務局より、資料19ページ～21ページのとおり説明した。

〈意見・質疑応答〉

- ・（中村和司委員）大船渡アスリート応援団（以下、「応援団」という。）に佐々木朗希選手が入っていないようだが、なにか事情があるのか。
 - リストアップしているものの、選手本人及び球団からの承諾について調整を進めているところである。
- ・（熊谷侑希委員）令和4年度の事業計画を作成するに当たって、今年度の反省を生かされていると思うが、令和3年度の実施状況の部分で、「高齢者・障がい者スポーツの環境づくり」が課題としてあげられているが、来年度の事業にこうした方々が参加できる事業はいくつあるのか。
 - 令和4年度の新規事業としてあげていないものの、生涯学習課が事務局を務める大船渡

市スポーツ推進委員協議会の活動において、今後、障がい者スポーツに力を入れていくこととしており、スポーツ推進委員の活動を通じて支援や盛り上げを図っていければと思う。
→ 釜石市のラグビーのお手伝いによく参加しているが、車いすの方がボランティアで参加しているのを見て、競技者として参加するだけでなく、そうした支援の部分での関わり方もあるのではないかと考えている。

- ・ (田中正芳会長) 先日の岩手日報紙に、希望郷いわて国体に参加した選手の競技の継続状況について、追跡調査した記事が載っていた。現在でも競技を続けているのは、34%程度しかいないようだ。高校、大学などの卒業で競技をやめてしまう例が多く、岩手県に帰ってきたとしても受け皿がないなど、様々な課題があるようだ。これは、トップアスリートだけでなく、いわゆる愛好者の方々にも通じる問題だ。みんながスポーツを楽しむ施設、環境を目指して議論を進めていくのが、この場なのだろうと思う。時間があれば更に御意見をいただきたいところだが、時間の関係上、今日はここまでとなる。本日、貴重な御意見を頂戴したことに感謝申し上げる。
- ・ (新沼部長) 先ほど佐々木朗希選手が話題になったが、アスリート応援団は、佐々木朗希選手をモデルケースとして取組を進めているところであり、このことについては、球団にも容認いただいている。実質的には、公認アスリートと同格、むしろ別格の扱いになると考えている。今回、応援団と千葉ロッテマリーンズとの連携事業、これは岩手県とも連携して行う事業であるが、こうした事業は、当然、佐々木選手なくしては成り立たなかった事業であることをあえて申し上げたい。
- ・ (中村和司委員) 猪川地区公民館を会場とする卓球教室が発足した記事を拝見した。サーブもできない一般の方が集まって練習しているそうで、経験のある人は、市民体育館で活動しているクラブに加入しており、未経験の人はどこで活動したらよいか、ということで、この活動が始まったようだ。段々と参加者数が増えてきているとのことで、情報提供したい。

4 その他

事務局より、委員の任期について説明した。

5 閉会